

野党結束 政権交代へ 「協力合意」歓迎

五十嵐 仁（法政大学名誉教授・法政大学大原社会問題研究所元所長）

〔以下のコメントは『しんぶん赤旗』2021年10月2日付に掲載されたものです。〕

国民に希望の光ともす

市民と野党の共闘にとって政権に関する合意は初めてで、新たな段階を画するものといえま

す。4野党と市民連合との共通政策の合意がホップなら、今回の政権合意はステップ。次のジャンプは最終的な候補者調整で「一対一の構図」をつくり、「関ヶ原の合戦」に勝利することでしょう。

野党の側の支持率が上がらなかったのは、自公政権に変わる「受け皿」の姿がはっきりしなかったからです。自民党が岸田文雄新総裁を決めて新首相を選出しようとしているとき、今回の合意は自公政権に対抗する野党連合の新政権という選択肢を示しました。まさに、国民に希望の光をともし歴史的合意だったといえます。

総裁選ではつきりしたのは、自民党は相変わらず、「安倍支配」に毒されており、かえってその力が強まったということです。

岸田氏は、「新自由主義からの転換」「分配重視」といつてハト派・リベラルの装いで国民に幻想を与えようとしています。しかし、成長を促したとして「アベノミクス」(安倍晋三政権の経済政策)を評価し、改憲・軍拡路線、強権政治、森友問題の隠蔽など、安倍・菅政権を継承する立場は変わりません。

国民の多くは自公のコロナ失政のもとで苦しみ、なんとかしなければと思いはじめています。国民の命、暮らしを守るためにも、野党が力を合わせ一丸となって持てる力をだしきり、政権交代を実現するしか救いへの道はありません。